

パルシステム生産者・消費者協議会

第30回 通常総会

《次第》

1. 開会の辞
2. 代表幹事挨拶
3. 来賓挨拶
4. 議長選出
5. 書記任命・議事録署名人選出
6. 議案審議

第1号議案 2018年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件

第2号議案 2019年度活動方針並びに予算案承認の件

第3号議案 役員改選の件

第4号議案 会費払込の件

7. 議長解任
8. 閉会の辞

もくじ

第 1 号議案	2 0 1 8 年度活動報告並びに 決算報告・監査報告承認の件-----	1
第 2 号議案	2 0 1 9 年度活動方針並びに 予算案承認の件-----	1 2
第 3 号議案	役員改選の件-----	1 5
第 4 号議案	会費払込の件-----	1 7
【資料】	-----	1 8
【運営規程】	-----	3 1
【会費基準及び旅費・慶弔規程】	-----	3 3
【組織規約】	-----	3 5

第 1 号議案

2018年度活動のまとめ並びに決算・監査報告承認の件

《2018年度の振り返り》

2018年度は昨年に続き災害の多い1年となりました。各地での雪によるトラブルに加え、西日本豪雨被害、台風21・24・25号の被害、北海道胆振東部地震等の自然災害は生消協を含めたパルシステムの産地・施設に甚大な被害をもたらし、農産物の生産・出荷機能のみならず、生産者自身の自宅など多くの被害・影響を与えました。生消協ではパルシステムグループと連携し会員産地の被害状況把握と会議での情報共有を行い、西日本豪雨被害についてのカンパを募り被災地への贈呈を行いました。

自然災害に加え生産物価格の変動など厳しい情勢が続いておりますが、生消協では産地およびパルシステムグループの将来を担う人材の育成として2016年度から取り組んでいる次世代リーダー研修を継続しました。また、生産者を講師とし会員生協で実施する「ほんもの実感！」センター研修を拡大、部会連携でのパルシステム職員向け企画を行うなど産地への理解促進と日々組合員に接する職員への産地情報の提供に注力しました。

このほか、エコ・チャレンジ基準の見直しに関しては、見直し検討委員会への役員派遣を行うとともに青果フォーラム、各ブロック会議での進捗報告と生産者からの意見・要望を確認し、生産者と消費者が一体となってパルシステムの産直継続できるよう議論を進めました。

生消協の各種会議・企画は年間50回を超えるまでになりました。生産者と消費者が共に学び交流する取り組みと将来を見据えた種をまく活動等、幅広く取り組んだ1年となりました。



▲東北・北海道ブロック会議での生産者との意見交換



▲関西・以西ブロック会議

《重点方針と具体的施策》

I 農畜産業を取り巻く厳しい状況に対応するために、「産地ビジョン」を活用した情報共有や学習を行い、次世代のリーダーを育成し、産地と地域の活性化を目指します。

①情勢の変化や少子高齢化社会への対応について、パルシステムグループと連携し、牽引する次世代リーダー育成を継続します。

→生産者とパルシステムグループ職員が共に学ぶ次世代リーダー研修に取り組みました。2016年度から2年連続で実施した「若手リーダー研修」をリニューアルし、①経営者向け連続企画（3回・26名）と②先進産地視察研修（4回・54名）を行い、合計80名が参加しました。

②経済情勢や労働力不足への対応について、国内外の先進事例から学ぶ機会を創出します。

→幹事研修会において株式会社パソナの担当者を招聘し、農業を取り巻く雇用環境の変化について学習・意見交換を行いました。

→会員産地を対象とした海外視察研修を9月に実施しベトナムにおける農産物の生産・販売・流通の実態と技能実習生送り出し機関視察、日本語学校運営等について学びました。

③産地がそれぞれの地域や行政と関わりながら、農福連携や都市・地方のコミュニティ再生に取り組んでいる事例について学びます。

→関西・以西ブロック会議では受入産地の産地ビジョンと合わせて熊本震災後の復興の取り組みや生消協カンパの活用について報告を受けました。

→パルシステム東京の産直フェスタ（三鷹センター祭）にて障がい者を雇用する産地の商品販売を行い農産産地における障がい者の雇用や理解が促進するよう説明の場を作りました。

④「産地ビジョン」の具現化に向け、産地の取り組み・課題・進捗状況等を共有します。

→産地ビジョン作成後の経過について上期ブロック会議（産地開催）、下期合同ブロック会議等で確認し、課題について意見交換を行いました。

→2016年・2017年に若手リーダー研修に参加したメンバーにより同窓会企画（産地視察・意見交換会）を実施し、若手が思い描く産地の将来の実現に向けた動き・努力・苦労・直面する課題について共有しました。

→株式会社ジーピーエスの近郊産地会議にて会員産地が産地ビジョン作成後の将来目標への進捗・課題について報告を行いました。

⑤国産志向を高める学習を行い、食料自給率向上に取り組めます。また、飼料米を使用したこめ卵、こめ豚、こめ鶏の普及を後押しします。

→会員生協の学習会に会員産地が出席し、国産農産物消費の重要性和産直の意義について消費者に訴えました。

→会員生協にてセンター研修を行い畜産生産者から生産の現状について産地の取り組みを伝えました。

⑥女性生産者間の交流の場の拡大と女性の活躍について学習できる場として、女性生産者交流会の充実を図ります。

→女性生産者交流会には合計82名（24産地65名の生産者）が出席し、産地での女性の活躍、第6次産業化の取り組み、後継者問題等について意見交換を行いました。



▲女性生産者交流会のグループワーク



▲幹事研修会での労働力に関する講演



▲海外視察研修(ベトナム)



▲パルシステム東京の産直フェスタ



▲次世代リーダー研修(八千代産直)



▲次世代リーダー研修(経営者向け企画)

Ⅱ 環境保全型農業を推進します。

①コア・フード、エコ・チャレンジ基準農産物の生産と消費の拡大に取り組みます。

→青果フォーラム（30産地47名の生産者、生消協・パルシステム関係者など合計116名が出席）においてコア・フード、エコ・チャレンジ基準で生産することの意義や消費者への理解について共有を行いました。

→パルシステム東京のセンター研修に生産者を派遣し、コア・フードやエコ・チャレンジ基準で生産を行う産地の取り組みについて説明を行い、センター祭にて生産者が対面販売を行い栽培の苦労や品種の特徴など説明を行いました。

②エコ・チャレンジ基準の見直し検討の議論を継続します。エコ・チャレンジが目指す環境保全型農業とは何かを、生産者と消費者で十分な議論を行います。

- エコ・チャレンジ基準見直し検討委員会に5名（代表幹事、副代表幹事、役員）の委員派遣を行いました。また、議論の進捗をブロック会議、青果フォーラム、幹事会、生産者運営委員会、消費者運営委員会等で報告しました。
- エコ・チャレンジ基準見直しの議論にあたり、消費者運営委員会では9月にフィールドワークを開催し、アップルファームさみずで、エコ・チャレンジ栽培の現状と課題、産地の考えについて学びました。
- ③化学合成農薬・化学合成肥料の削減による土作りを継続し、生物多様性に寄与する環境保全型農業を推進と生きもの調査による検証及び産地間の情報共有を行います。
- 農法研究会、青果フォーラムにおいて天敵活用による農薬削減（総合的病虫害管理）の実証実験に取り組む2産地より経過報告を行いました。
- 農林水産省主催の「未来につながる持続可能な農業推進コンクール（有機農業・環境保全型農業部門）」に応募しました。生消協の取り組みが評価され東京都代表として全国審査を受けることになりました。
- ④より多くの組合員に環境保全型農業への理解を深める機会を作り、消費拡大に努めます。
- 産直連続講座では会員産地の生産者が講師を担当し、環境に配慮して生産された農産物への理解促進と食べ方提案等を行いました（2018年度は26産地882名参加の講座を開催）。



▲パルシステム東京のセンター研修



▲青果フォーラム



▲関東・中部ブロック会議



▲消費者運営委員会フィールドワーク

Ⅲ 農畜産物の生産性向上を目指します。

- ①生産者と消費者の品質に対する考え方を共有し、品質向上及び安定供給の取り組みを継続します。
- 消費者運営委員会では9月にフィールドワークを開催し、アップルファームさみずで栽培の現状（圃場視察）と品質向上（選果場）について学習しました。また、10月の消費者運営委員会を

木徳神糧株式会社にて開催し、精米技術や品質向上への取り組みと消費者へのフィードバック対応について学びました。

②出荷基準の確認・見直しの場の設定など部会での議論を行います。

→米部会（年3回会議、産地研修1回）、野菜部会・果樹部会（青果フォーラム、実行委員会）、畜産部会（年1回会議）、鶏卵部会（たまご会議を年4回）にて関係産地とともに出荷基準・生産の現状報告・物流課題の議論等をそれぞれ議論しました。

③生産に関するリスク管理の仕組みづくりを推進します。

→青果フォーラムではエコ・チャレンジ基準見直しや天敵活用による害虫防除の取り組みのほか、生産者が直面する課題について意見交換を行いました。

④生産物の付加価値向上による生産者の所得向上を目指します。

→女性生産者交流会では6次産業化や加工による付加価値向上の事例について学びました。

⑤物流問題における品質向上やコストなど、課題解決に向けた取り組みを行います。

→東北・北海道ブロック会議では北海道新幹線開通に伴う物流事情の変化と地域振興の可能性について講師から学ぶと共に、株式会社ジーピーエスの共用パレット実験の取り組みについて報告を受けました。

→下期合同ブロック会議では各ブロックの物流事情、物流コストの高騰、品質・鮮度の維持・向上の努力について意見交換を行いました。



▲青果フォーラムでの生産者報告



▲女性生産者交流会での加工品開発報告



▲東北・北海道ブロック会議



▲下期合同ブロック会議



▲木徳神糧株式会社視察



▲米部会会議

IV 生消協および産地の取り組みを「伝え」、「交流する」活動に取り組めます。

①パルシステムの「ほんもの実感！」くらしづくりアクションへの取り組みに積極的に参加します。

→会員生協を対象に産直連続講座を開催し、産地の取り組みや商品への思い、台風や天候不順の際の苦労などを伝える学習会を行い、組合員と交流を行いました。

→「産直ごはんの日」を会員生協でも開催し、産地との交流を行いました。

②東京電力福島第一原発事故を風化させないための活動を継続するとともに、産地における発電の取り組みや再生可能エネルギーについて理解を深めます。

→青年農業者交流会を福島県（土湯温泉）にて開催し61名（19産地42名の生産者）が参加しました。福島の復興の道のりや再生可能エネルギー学習（映画「おだやかな革命」）の上映、グループワーク、地熱バイナリー発電所視察）を行いました。

→第2回幹事会においてパルシステム電力からソーラーシェアリングの事例と会員産地への導入シミュレーション報告を受けました。

③会員生協を中心に配送同乗体験や職員・組合員への学習会に共に取り組み、お互いの理解を深めます。またその効果を検証しながら次の取り組みに繋げていきます。

→パルシステムの配送センター等で職員を対象とした学習会を開催し、生産者が講師を担当しました（21産地31名）。2018年度は東京・神奈川・埼玉・山梨の合計156名の職員が学びました。



▲青年農業者交流会でのグループワーク



▲青年農業者交流会でのバイナリー発電所視察



▲パルシステム埼玉センター研修



▲パルシステム山梨センター研修



▲パルシステム神奈川ゆめコープセンター研修



▲パルシステム東京センター研修



▲産直連続講座(パルシステム茨城 栃木)



▲産直連続講座(パルシステム山梨)

V 生消協の価値と取り組みを広め更なる発展をめざします。

- ①「ほんもの実感」の取り組みをさらに推進するため、SDGs※注1への理解を深め生消協として取り組める課題を模索します
 →幹事会および各種会議においてパルシステムの「『ほんもの実感!』くらしづくりアクション」が、「ジャパン SDGs アワード」のSDGs推進副本部長(官房長官)賞を受賞した報告を行いました。
- 次世代リーダー研修(第2回)において「パルシステムとSDGs」と題した講演を行い、パルシステムが産地そして組合員と共に目指すゴールについて学びました。
- ②会員産地を増やすとともに、生消協の活動への理解促進や積極的な参加を促せるような体制作りに努めます。

→パルシステムの担当職員および会員産地の紹介により新たに4会員が新規加入、1会員が退会し合計178会員となりました。また加入後の年間会議への出席案内を行い積極的な参加をお願いしました。

③部会間の連携を促進し、産地相互の関係強化と発展を目指します。

→第2回生産者運営委員会（株式会社ジーピーエス開催）にて部会ごとにパルシステムグループ職員を交えて意見交換する場を設定し、それぞれが報告する場を設けました。

→これまで米部会が取り組んできた「産直ごはんの日」を「産直の日」に改定し、米・野菜・果樹・畜産・鶏卵の5部会が連携して産地と生産物の学習・理解促進を図るイベントに取り組みました。

④ホームページ等を活用し、生消協の取り組みを伝える広報活動を積極的に行います。

→各種会議・イベントの報告を生消協ホームページに掲載し参加できない会員への情報提供を行いました。

→フェイスブックを活用し生消協の活動およびタイムリーな産地の情報発信を開始しました。



▲次世代リーダー研修(ジーピーエス視察)



▲次世代リーダー研修(板倉食材カットセンター)



▲部会連携「産直の日」企画



▲産直連続講座(パルシステム群馬)

以上

2018年度 パルシステム生産者・消費者協議会 決算書

貸 借 対 照 表
2018年 12月 31日 現在

(単位:円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
普 通 預 金	1,697,093	未 払 金	1,378,614
未 収 金	0	預 り 金	0
立 替 金	0	仮 受 金	0
		流 動 負 債 合 計	1,378,614
流 動 資 産 合 計	1,697,093	負 債 合 計	1,378,614
		前 期 繰 越 金	1,711,620
		当 期 剰 余 金	△ 1,393,141
		剰 余 金 合 計	318,479
資 産 合 計	1,697,093	負 債・剰 余 金 合 計	1,697,093

損 益 計 算 書

自 2018 年 1月 1日 至 2018年 12月 31日

(単位:円)

会 費 収 入		22,126,000
収 入 計		22,126,000
委 託 費	3,600,000	
通 信 費	892,196	
旅 費 交 通 費	147,786	
幹 事 会 費	2,617,065	
生産者運営委員	4,358,699	
消費者運営委員	3,232,017	
ブロック会議費	2,435,423	
部会活動補助費	2,129,384	
調 査 研 究 費	96,400	
会 議 費	2,010,322	
ホームページ運営費	507,600	
産地ビジョン編集費	0	
SNS 開 発	0	
事 務 所 負 担 費	388,800	
会 計 委 託 費	194,400	
渉 外 費	368,176	
アトバイザー経費	320,468	
国 際 交 流 費	0	
消 耗 品 費	70,216	
雑 費	150,228	
支 出 計	23,519,180	
事 業 剰 余 金		△ 1,393,180
雑 収 入	39	39
当 期 剰 余 金		△ 1,393,141
前 期 繰 越 金		1,711,620
次 期 繰 越 金		318,479

2018年度 パルシステム生産者・消費者協議会 予算比較表

自 2018年 1月 1日 至 2018年 12月 31日

(単位:円)

勘定科目		当期予算額	当期実績額	予算増減額	予算対比	備考
収入	会費収入(生産者)	11,000,000	11,126,000	126,000	101.1%	生産者 パルシステムグループ
	会費収入(パルグループ)	11,000,000	11,000,000	0	100.0%	
	合 計	22,000,000	22,126,000	126,000	100.6%	
支出	委 託 費	3,600,000	3,600,000	0	100.0%	事務局人件費
	通 信 費	300,000	892,196	592,196	297.4%	通信費=300,000
	旅 費 交 通 費		147,786	147,786	0.0%	事務局旅費交通費
	幹 事 会 費	2,500,000	2,617,065	117,065	104.7%	交通費=1,600,000 活動補助費=300,000 公開確認会派遣費=500,000、事務局会議費100,000
	(交通費)	1,600,000	1,758,297	158,297	109.9%	
	(活動補助費)	300,000	378,303	78,303	126.1%	
	(公開確認会派遣)	500,000	362,825	△ 137,175	72.6%	
	(事務局会議費)	100,000	117,640	17,640	117.6%	
	生産者運営委員会費	3,850,000	4,358,699	508,699	113.2%	交通費=1,000,000 活動補助費=150,000 リーダー研修補助=2,000,000 ほんもの実感! 同乗研修 =700,000
	(交通費)	1,000,000	1,015,286	15,286	101.5%	
	(活動補助費)	150,000	310,468	160,468	207.0%	
	(リーダー研修補助)	2,000,000	2,318,609	318,609	115.9%	
	ほんもの実感!同乗研修	700,000	714,336	14,336	102.0%	
	消費者運営委員会	3,100,000	3,232,017	132,017	104.3%	青年農業者交流会=700,000 女性生産者交流会=700,000 消費者幹事交通費=1,600,000 その他活動費等=100,000
	(青年農業者交流会)	700,000	704,598	4,598	100.7%	
	(女性生産者交流会)	700,000	698,271	△ 1,729	99.8%	
	(消費者幹事交通費)	1,600,000	1,741,288	141,288	108.8%	
	(活動補助費)	100,000	87,860	△ 12,140	87.9%	
	ブ ロ ッ ク 会 議 費	2,000,000	2,435,423	435,423	121.8%	関東・中部=800,000 東北・北海道=600,000 関西・以西=600,000
	(関東・中部)	800,000	557,494	△ 242,506	69.7%	
	(東北・北海道)	600,000	610,388	10,388	101.7%	
	(関西・以西)	600,000	772,669	172,669	128.8%	
	(合同)	0	494,872	494,872	0.0%	
	部 会 活 動 補 助 費	2,150,000	2,129,384	△ 20,616	99.0%	部会活動補助総額=1,150,000 産直講座交通費=1,000,000
	(部会活動補助)	1,150,000	1,088,275	△ 61,725	94.6%	
	(産直講座交通費)	1,000,000	1,041,109	41,109	104.1%	
	調 査 研 究 費	100,000	96,400	△ 3,600	96.4%	品質向上対策、購読購入など。
	会 議 費	2,100,000	2,010,322	△ 89,678	95.7%	総会費用=1,700,000 農法研究会=400,000
	(総会費用)	1,700,000	1,624,620	△ 75,380	95.6%	
	(農法研究会)	400,000	385,702	△ 14,298	96.4%	
	ホームページ運営費	500,000	507,600	7,600	101.5%	メンテナンス費用等
	産地ビジョン編集費	0	0	0	0.0%	フェイスブック、ブログなどの情報の相互共有化を強化
	事 務 所 負 担 費	388,800	388,800	0	100.0%	半期毎の支払い
	会 計 委 託 費	194,400	194,400	0	100.0%	半期毎の支払い
	渉 外 費	500,000	368,176	△ 131,824	73.6%	慶弔関係費、自然災害等の見舞金対応予算 ※1
	アト`ハ`イサ`ー 経 費	400,000	320,468	△ 79,532	80.1%	会議、企画に応じ必要な方を依頼
	消 耗 品 費	216,800	70,216	△ 146,584	32.4%	封筒作成、文具等
	雑 費	100,000	150,228	50,228	150.2%	支払手数料、賛助金、団体会費等=100,000
	合 計	22,000,000	23,519,180	1,519,180	106.9%	
事 業 剩 余 金		0	△ 1,393,180	△ 1,393,180	0.0%	
雑 収 入		0	39	39	0.0%	
剩 余 金		0	△ 1,393,141	△ 1,393,141	0.0%	
前 期 繰 越 金		1,711,620	1,711,620	0	100.0%	
次 期 繰 越 金		1,711,620	318,479	△ 1,393,141	18.6%	※2

※1 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 翌年の会費が入る前、1～3月の3ヶ月間は、つなぎ資金が必要となります。

監 査 報 告 書

2019年1月31日

バルシステム生産者・消費者協議会

監事 松崎 智明



監事 田原 けい子



次のように2018年度、年間監査を行いましたので下記にご報告申し上げます。

記

1. 監査日時 2019年1月31日（木）15:00～16:00

2. 監査の場所 バルシステム連合会 4階第6会議室

3. 監査立会人 バルシステム生産者・消費者協議会 代表幹事 大津清次
バルシステム連合会経理部 関本真司
生消協事務局 原慎一郎
吉川光洋

4. 監査方法

貸借対照表、損益計算書、総勘定元帳、補助簿等の提出を求め、監査を行いました。

5. 監査意見

会計収支は適正に処理されていることを認めます。

以上

第2号議案

2019年度活動方針並びに予算案承認の件

《2019年度 方針案》

I 「産地ビジョン」を活用し、持続可能な農業や地域づくりを進め産直の意義とこれらについて考えます。

- ①パルシステムグループと連携し、次世代リーダー育成を継続します。
- ②「ほんもの実感！」くらしづくりアクションの取り組みをさらに推進し、産直を通してSDGsに貢献します。
- ③労働力確保のために、新規就農支援の取り組みや海外実習生の受入制度を学びます。
- ④農福連携や、産直をとおして都市・地方のコミュニティづくりに取り組んでいる事例について、学びます。
- ⑤「産地ビジョン」の具現化に向け、ブロック会議等で進捗や直面する課題を共有します。
- ⑥国産志向を高める学習を行い、食料自給率向上に取り組めます。また、畜産の飼料自給率向上に取り組めます。
- ⑦全国規模の団体のメリットを生かし6次産業化と産地で取り組める保存食・加工食品について学ぶ場を作ります。

II 環境保全型農業を推進します。

- ①農薬削減プログラムを再確認し、農薬の使用総量削減に取り組めます。コア・フード、エコ・チャレンジ基準農産物の生産と消費の拡大に取り組めます。
- ②総合的病害虫管理の考え方にに基づき、農薬に頼らない技術（耕種的防除・生物的防除・物理的防除）の普及に努めます。
- ③農法研究会や生きもの調査などを通して、より多くの消費者に環境保全型農業への理解を深める機会を作り、消費拡大に努めます。

III 農畜産物の生産性向上を目指します。

- ①生産者と消費者の品質に対する考え方を共有し、品質向上及び安定供給の取り組みを継続します。
- ②出荷基準の確認・見直しの場の設定など部会での論議を行います。
- ③生産に関するリスク管理の仕組みづくりを推進します。
- ④生産物の付加価値向上による生産者の所得向上を目指します。
- ⑤物流問題における品質向上やコストなど、課題解決に向けた取り組みを行います。
- ⑥持続可能な農業経営のためのビジネスモデルの模索を行います。
- ⑦ITやAI技術の活用や省力化による新たな農業について学ぶ場を作ります。

Ⅳ 生産者、消費者の取り組みを伝え、交流します。

- ①パルシステムの「ほんもの実感！」くらしづくりアクションへの取り組みに積極的に参加します。
- ②東京電力福島第一原発事故を風化させないための活動を継続するとともに、産地における発電の取り組みや再生可能エネルギーについて理解を深めます。
- ③会員生協と協同で産直連続講座、配送同乗体験や職員・組合員への学習会に共に取り組み、お互いの理解を深めます。またその効果を検証しながら次の取り組みに繋げていきます。
- ④女性生産者間の交流の場の拡大と女性の活躍について学習できる場として、生産者と消費者が共に作り上げる女性生産者交流会の充実を図ります。

Ⅴ 生消協の価値と取り組みを広め更なる発展をめざします。

- ①会員産地を増やすとともに、生消協の活動への理解促進や積極的な参加を促します。
- ②部会間で連携し、産地相互の関係強化と消費者への理解が促進する企画を提案します。
- ③ホームページ、SNSなどを活用し、生消協の取り組みを身近に伝える広報活動を積極的に行います。
- ④公開確認会の開催産地について生消協推薦を行い、部会・ブロック内産地で積極的な参加を促します。

以上

《2019年度予算案》

期間：2019年1月1日～2019年12月31日

(単位：円)

勘定科目		2019年度予算	構成比	備考
収入	会 費 収 入 (生 産 者)	11,000,000	50.0%	昨年実績：11,126,000
	会費収入(パルグループ)	11,000,000	50.0%	
	合 計	22,000,000	100.0%	
支出	委 託 費	3,600,000	16.5%	事務局人件費
	通 信 費	300,000	1.4%	
	幹 事 会 費	2,000,000	9.1%	交通費=1,300,000 活動補助費=300,000 公開確認会派遣費=400,000
	生 産 者 運 営 委 員 会 費	2,750,000	12.6%	交通費=700,000 活動補助費=100,000 リーダー研修補助=1,500,000 ほんもの実感！同乗研修=450,000
	消 費 者 運 営 委 員 会	2,700,000	12.3%	青年農業者交流会=700,000 女性生産者交流会=300,000 消費者幹事交通費=1,600,000 その他活動費等=100,000
	ブ ロ ッ ク 会 議 費	1,200,000	5.5%	関東・中部=400,000 東北・北海道=400,000 関西・以西=400,000
	部 会 活 動 補 助 費	2,150,000	9.8%	部会活動補助総額=1,150,000 産直講座交通費=1,000,000
	調 査 研 究 費	50,000	0.2%	品質向上対策、購読購入など。
	会 議 費	5,400,000	24.7%	総会費用=5,000,000 農法研究会=400,000
	ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	300,000	1.4%	メンテナンス費用等
	事 務 所 負 担 費	388,800	1.8%	半期毎の支払い
	会 計 委 託 費	194,400	0.9%	半期毎の支払い
	渉 外 費	300,000	1.4%	慶弔関係費、自然災害等の見舞金対応予算 ※1
	ア ド バ イ ザ ー 経 費	300,000	1.4%	会議、企画に応じ必要な方を依頼
	消 耗 品 費	100,000	0.5%	封筒作成、文具等
	雑 費	150,000	0.7%	支払手数料、賛助金
	合 計	21,883,200	100.0%	
	前 期 繰 越 金	318,479		
	次 期 繰 越 金	435,279		※2

※1 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 翌年の会費が入る前、1～3月の3ヶ月間は、つなぎ資金が必要となります。

第3号議案

役員改選の件

役員の改選期にともない、役員推薦を行います。
併せて、ブロック役員の承認をお願いします。

【生産者幹事候補】

所属ブロック名	氏名	所属団体(所在地)
東北・北海道ブロック	戸澤 藤彦	花咲農園(秋田県)
東北・北海道ブロック	五十川 賢治	大牧農場(北海道)
東北・北海道ブロック	高橋 直之	庄内協同ファーム(山形県)
関東・中部ブロック	小川 保	JAつくば市谷田部(茨城県)
関東・中部ブロック	雨宮 政彦	山梨御坂くだもの倶楽部(山梨県)
関東・中部ブロック	矢内 克志	沃土会(埼玉県)
関東・中部ブロック	毛利 嘉宏	野菜くらぶ(群馬県)
関東・中部ブロック	鳥居 啓宣	ジョイファーム小田原(神奈川県)
関東・中部ブロック	飯田 卓	佐原農産物供給センター(千葉県)
青年幹事	坂入 清史	八千代産直(茨城県)
関西・以西ブロック	和田 宗隆	大紀コープファーム(奈良県)
関西・以西ブロック	大津 清次	無茶々園(愛媛県)
関西・以西ブロック	酒井 武信	長有研(長崎県)

【消費者幹事候補】

パルシステム東京	山口 寿美子
パルシステム神奈川ゆめコープ	鈴木 紀子
パルシステム千葉	高橋 由美子
パルシステム埼玉	平野 俊子
パルシステム茨城 栃木	小武内 美智子
パルシステム山梨	長谷川 香織
パルシステム群馬	吉田 澄子
パルシステム福島	佐藤 君枝
パルシステム静岡	内田 夕加里
パルシステム連合会	洪澤 温之
株式会社ジーピーエス	野村 和夫
株式会社パル・ミート	大泉 幸雄

※会員生協役員改選に伴う消費者幹事変更がある場合は、規約第4条に従い変更する。

【監事候補】

所属団体	氏名
すすき牧場	薄 一郎
パルシステム東京	調整中

《ブロック役員》**◆ 東北・北海道ブロック**

ブロック長(幹事兼任)	高橋 直之	庄内協同ファーム(山形県)
副ブロック長	宮北 輝	宮北牧場(北海道)
副ブロック長	能登谷 知剛	常盤村養鶏農業協同組合(青森県)

◆ 関東・中部ブロック

ブロック長(幹事兼任)	毛利 嘉宏	野菜くらぶ(群馬県)
副ブロック長	山下 一樹	アップルファームさみず(長野県)
副ブロック長	塙 正樹	葉菜野果産直(茨城県)

◆ 関西・以西ブロック

ブロック長(幹事兼任)	酒井 武信	長有研(長崎県)
副ブロック長	佐藤 隆	やさか共同農場(島根県)
副ブロック長	澤村 輝彦	水俣不知火ネットワーク(熊本県)

※専門部会長・副部会長については、各部会で選任する。

第4号議案

会費払込の件

提案の背景

現在、生消協では会計年度を【自1月1日～至12月31日】とし会計処理を行っております。現行の「会費基準及び旅費・慶弔規程」第2条（会費払込）では消費者会費の支払い期日を4月末日、生産者会費の支払い期日を9月末日としており、当該会計年度の1月から4月（消費者会費支払いまで）の活動資金はつなぎ資金（繰越金）で賄われている実態があります。

これまでは年度繰越金が例年発生していたため、1月から4月（消費者会費支払いまで）の活動資金に充当しながら運営することができていましたが、生消協は非営利の任意団体でありつなぎ資金を前提とした会計処理は適正ではないことが会計監査でも指摘されています。

近年、積極的に展開している産直連続講座補助、次世代リーダー育成への取り組み、会員生協センター研修の実施などの活動に関連した経費が主な増加要因ですが、いずれも生消協として方針に基づき力を入れるべき取り組みであり、経費抑制での対処は避けるべきと考えました。

本件について幹事会で議論を行った結果、生産者会費の支払い時期を変更することで支障ない企画運営の実現が可能と考えるため以下の改定を提案します。

本総会における改訂部分

会費基準及び旅費・慶弔規程（会費払込） 第2条

【改定前】 1. 生産者側団体の会費の払い込みは、当該年度の7月末までに各団体へ請求書を発行し、9月末日までに行うものとする。

↓

【改定後】 1. 生産者側団体の会費の払い込みは、当該年度の12月末までに各団体へ請求書を発行し、1月末日までに行うものとする。

会費の確定時期・切替初年度請求について

- ・ 現行の規定「(会費基準) 第1条 ①生産者団体」の「1. 生産者会費は最低会費を1万円としパルシステム連合会との前年度の年間取引高に基づき算定する。」を維持するものとします。
- ・ この改定を行った場合、切り替え年度（2019年度）の年会費は7月請求→9月末支払い、12月末請求→1月末支払いとなり年度内に2回の支払いが発生します。

以上

—資 料—

- 2018年度 主要活動日誌
- 幹事会・監査活動状況
- ブロック活動状況
- 生産者運営委員会活動状況
- 消費者運営委員会活動状況
- 配送同乗・センター学習会
- リーダー研修
- 公開確認会活動状況
- 「産直連続講座」活動状況

《2018年度 生消協 活動日誌 2018年3月～2019年2月》

月	日	会議・企画名	備考
3月	1日	第29回通常総会	東京都（日経ホール）
	2日	会員生協別交流会	各会員生協
4月	2日	第1回消費者運営委員会	
	12日	第1回幹事会	
	12日	第1回生産者運営委員会	
	25～26日	上期 関東・中部ブロック会議	神奈川県（箱根湯本温泉ホテルおかだ）
5月	7日	第2回消費者運営委員会	
6月	4日	第3回消費者運営委員会	
	14～15日	次世代リーダー研修（単発企画①）	埼玉県（ジーピーエス）
	15～16日	パルシステム東京 センター研修①・センター祭	東京都（練馬センター）
	21～22日	上期 東北・北海道ブロック会議	青森県（常盤村養鶏農業協同組合）
	29日	第2回生産者運営委員会	埼玉県（ジーピーエス）
7月	2日	第4回消費者運営委員会	東京都（林野会館）
	5～6日	次世代リーダー研修（単発企画②）	秋田県（ポークランドグループ）
	12～13日	次世代リーダー研修（経営者向け①）	東京都（電設年金会館）
	19～20日	第2回米部会（産地研修・公開確認会）	山形県（JA山形おきたま）
	19～20日	幹事合宿・第2回幹事会	
8月	6日	第5回消費者運営委員会	
	23～24日	次世代リーダー研修（経営者向け）同窓会企画	大阪府（なかむら農園、オルト）
	27～28日	女性生産者交流会	東京都（御茶ノ水ホテルジュラク）
9月	3～4日	上期 関西・以西ブロック会議	熊本県（フレッシュダイレクト）
	10日	第6回消費者運営委員会（フィールドワーク）	長野県（アップルファームさみず）
	13～14日	次世代リーダー研修（単発企画③）	奈良県（大紀コープファーム）
	16～21日	海外視察研修	ベトナム・バンメトート市
10月	1日	第7回消費者運営委員会	埼玉県（木徳神糧（株）桶川工場）
	11日	パルシステム東京 センター研修②・産地収穫体験	・埼玉県（沃土会） ・千葉県（佐原農産物供給センター）
	12日	青果フォーラム	東京都（TKPガーデンシティ PREMIUM 秋葉原）
11月	1日	第3回生産者運営委員会	
	1日	第8回消費者運営委員会	
	8～9日	青年農業者交流会	福島県（土湯温泉「山水荘」）
	14日	下期東北・北海道ブロック役員会	
	15日	第3回幹事会	
	20日	産直の日	
	21～22日	次世代リーダー研修（単発企画④）	茨城県（八千代産直）
	26～27日	下期 関東・中部ブロック役員会	神奈川県
	29～30日	次世代リーダー研修（経営者向け②）	
	30日	パルシステム東京センター研修③・畜産学習会	東京都（三鷹センター）

12月	1日	パルシステム東京センター研修③・センター祭り	東京都（三鷹センター）
	3日	第9回消費者運営委員会	
	14日	第3回米部会	
	17～18日	下期 関西・以西ブロック役員会	大阪府
1月	11日	第10回消費者運営委員会	
	16日	農法研究会	東京都（朝日ホール）
	16日	賀詞交歓会	東京都（品川プリンスホテル）
	17日	下期合同ブロック会議	
	17日	第4回生産者運営委員会	
	28日	第11回消費者運営委員会	
2月	1日	第4回幹事会	
	7～8日	次世代リーダー研修（経営者向け③）	
	15日	パルシステム東京研修④	

【幹事会】

月日	開催場所	議題
4月12日	東新宿事務所 会議室	・第30回通常総会開催案について ・2018年度 部会活動方針・予算について ・会員生協総代会、パルシステム連合会総会日程について （生消協参加役員調整） ・2018年度役割分担表（公開確認会・ブロック会議等） ・ほんもの実感！同乗研修について （パルシステム東京企画／会員生協企画） ・次世代リーダー研修について（経営者向け・単発企画） ・新規加入について
7月20日	東新宿事務所 会議室	・役員選考委員会について ・西日本豪雨への生消協対応について ・農法研究会について ・第30回通常総会、レセプションについて
11月15日	東新宿事務所 会議室	・役員選考委員会について ・西日本豪雨カンパの活用、産地配分について ・慶弔規定（内部運用基準）について ・農法研究会について ・第30回通常総会、レセプションについて ・2019年度活動方針（案）、確定までのスケジュール ・新規加入（3件）、退会（1件）について
2月1日	東新宿事務所 会議室	・第30回通常総会、レセプションについて ・総会議案書の確認（方針、決算、予算等） ・2019年度スケジュールについて

【監査】

月日	開催場所	内容
10月22日	東新宿事務所 会議室	2018年1月1日～6月30日までの半期決算監査
1月31日	東新宿事務所 会議室	2018年1月1日～12月31日までの年間決算監査

【上期ブロック会議】

月日	ブロック	開催場所	概要
4月25～26日	関東・中部	神奈川県	・参加者98名（30産地） ・受入産地：神奈川県 ・方針説明 ・受入産地プレゼンテーション ・グループワーク ・ジョイファーム小田原、神奈川中央養鶏視察
6月21～22日	東北・北海道	青森県	・参加者80名（17産地） ・受入産地：常盤村養鶏農業協同組合 ・方針説明 ・受入産地よりプレゼンテーション ・【講演】青森大学社会学部 社会学科 櫛引教授 ・【説明】ジーピーエス 物流部物流課 佐藤課長 ・八峰園、トキワ養鶏視察
9月3～4日	関西・以西	熊本県	・参加者66名（18産地） ・受入産地：株式会社フレッシュダイレクト ・方針説明 ・受入産地プレゼンテーション、震災支援カンパ報告 ・農福連携取組報告 ・【講演】農と自然の研究所 代表 宇根豊氏 ・【説明】ジーピーエス 物流部物流課 佐藤課長 ・中原温室、フレッシュダイレクト視察

【下期ブロック役員会議】

月日	ブロック	開催場所	概要
11月14日	東北・北海道	東京都	・2018年度ブロック会議の振り返り ・2019年度ブロック会議についての検討
11月26～27日	関東・中部	埼玉県	・2018年度ブロック会議の振り返り ・2019年度ブロック会議についての検討
12月17～18日	関西・以西	大阪府	・2018年度ブロック会議の振り返り ・2019年度ブロック会議についての検討

【生産者運営委員会】

月日	開催場所	議題
4月12日	東新宿事務所 会議室	・2018年度 部会活動方針・予算について ・2018年度役割分担表（公開確認会・ブロック会議等） ・会員生協総代会・パルシステム連合会総会日程について（生消協参加役員調整） ・ほんもの実感！同乗研修について（パルシステム東京／会員生協企画） ・次世代リーダー研修について（経営者向け・単発企画） ・「産直の日（仮）」開催について ・役員改選に伴う選考委員会の設置について ・天敵活用による害虫防除の取り組みについて
6月29日	ジーピーエス 会議室	・生産者役員選考委員会について ・農法研究会について ・第30回通常総会、レセプション内容について ・青果フォーラムについて ・海外視察研修について ・ジーピーエスとの意見交換
11月1日	東新宿事務所 会議室	・慶弔規定の運用について ・西日本豪雨カンパ配分（案）について ・生産者役員選考委員会について ・農法研究会について（名称・開催案） ・第30回通常総会・レセプション、記念品（案）について ・第30回通常総会後のOB会について
1月17日	東新宿事務所 会議室	・生産者役員選考委員会（役員改選）について ・第30回通常総会・レセプション・記念品（案）について ・会員生協別交流会内容（幹事派遣案） ・2018年度まとめ、2019年度活動方針（案）について

【消費者運営委員会】

月日	開催場所	議題
4月2日	東新宿事務所 会議室	・年間スケジュールの確認 ・企画別参加委員の割り振りについて（公開確認会・ブロック会議等） ・フィールドワークについて ・会員生協会費請求について
5月7日	東新宿事務所 会議室	・女性生産者交流会について（開催日程・内容等） ・フィールドワークについて ・年間スケジュール
6月4日	東新宿事務所 会議室	・女性生産者交流会について（日程・内容確定） ・フィールドワークについて ・青年農業者交流会（福島県・土湯温泉開催）について ・第30回記念総会レセプション講演者について

7月2日	林野会館 会議室	・女性生産者交流会について（企画内容） ・フィールドワークについて ・農法研究会について ・第30回総会の講演者等について
8月6日	東新宿事務所 会議室	・女性生産者交流会について（役割分担・進行等） ・フィールドワークについて（趣旨確認） ・農法研究会、第30回通常総会について ・産直連続講座について（意見交換）
9月10日	フィールドワーク	・圃場視察 ・昼食交流会 ・選果場視察および産地ビジョン説明 ・対象産地：アップルファームさみず（長野県）
10月1日	木徳神糧株式会社 桶川工場（埼玉県）	・フィールドワーク報告および意見交換 ・年間スケジュール確認 ・昼食を兼ねて4種類の炊飯米の食べ比べ ・工場視察、および概要、製品化の工程説明
11月1日	東新宿事務所 会議室	・農法研究会（名称・開催案）について ・第30回通常総会、レセプション、通常総会記念品（案）について ・産直ごはんの日について ・女性生産者交流会について（意見交換）
12月3日	東新宿事務所 会議室	・2018年度の振り返り、2019年度活動方針について ・第30回通常総会記念品（案）について ・女性生産者交流会（案）について ・生消協会員産地へのアンケートについて
1月11日	東新宿事務所 会議室	・2018年度活動報告、2019年度活動方針について（会員生協意見） ・会員生協別交流会について ・第30回通常総会記念品（案）について ・総会、記念誌、動画等について ・次年度会議スケジュールについて
1月28日	東新宿事務所 会議室	・2018年度活動方針について（意見交換継続） ・総会役割分担等について ・2019年度スケジュールについて

【パルシステム東京センター研修】

月日	企画	協力産地
6月15～16日	第1回 （練馬センター）	・参加者46名。 （生産者5産地5名、パルシステム東京17センターから28名ほか） ・産地ビジョンの報告、試食、グループワーク。 ・16日のセンター祭には、150組453名の来場者があった。
10月11日	第2回 産地研修 ・沃土会 ・佐原農産物	・各産地あたり職員20名の参加。集合各所よりバスで産地へ移動した。 ・異常気象による欠品多発時期に、組合員からの「なぜ届かないのか？」の声に対し、現状を伝えて理解を促し利用を継続してもらう声掛け及び紙面広報を行う」行動のために、産地の現状を知ることが目的とした。

	供給センター	・生産者による産地説明、商品担当による取り組み発表を行い、帰路のバス内ではディスカッションを行った。
11月30日～ 12月1日	第3回 (三鷹センター)	・11月30日には「畜産学習会」を開催。生産者（2産地4名）を講師に迎え、講義およびグループワークを行った。センター職員30名程が受講した。 ・12月1日の「産直フェスタ」では、産地の商品を販売した他、農福連携による取り組みも紹介。子供含め300名越えの来場者があった。
2月15日	第4回 (パルシステム 連合会)	・年間研修の振り返り ・商品担当による活動報告 ・研修受入産地よりコメント

【会員生協センター研修】

月日	開催場所	協力産地
6月19日	パルシステム神奈川 ゆめコープ (横浜南センター)	・参加者42名 (生産者5産地7名、パルシステム神奈川ゆめコープから34名ほか)。 ・産地（ビジョン）説明、調理・試食、グループワークを開催。 ・プチパスタの商品トークの向上と、利用につながる新規拡大につながった。
6月27日	パルシステム埼玉 (ばる★てらす)	・参加者31名（生産者5産地6名、パルシステム埼玉職員16名ほか）。 ・産地ビジョン説明（5産地）、試食、グループワーク ・「生産者と生産物について学べたことは強みになる。」といった感想が出された。
11月15日	パルシステム山梨 (びゅあ総合)	・参加者37名（生産者4産地4名、パルシステム山梨職員ほか33名）。 ・産地ビジョン説明（4産地）、試食、グループワークを開催。 ・初の開催となったが、感想は非常に好評。次年度以降も継続で開催したいとの要望があがった。

【次世代リーダー研修（単発企画）】

月日	企画	内容
6月14～15日	第1回 (ジーピーエス)	・参加者14名（生産者：6産地8名、パルシステムグループ4名ほか）。 ・ジーピーエスの各担当者より①青果・米事業について、②カタログ製作・企画・実績について、③品質管理について説明。 ・農産物のカット・小分け・検品作業、パルシステム連合会のセットライン（荷受・搬出等を含む）の視察。 ・パルシステム板倉食品加工センターにて、お料理セット（キット商品）の製造工程視察と説明。 ・パルシステム電力による講義「パルシステムでんきについて」
7月5～6日	第2回 (ポークランド グループ)	・参加者11名（生産者：3産地3名、パルシステムグループ8名ほか）。 ・産地による説明、畜産をめぐる情勢報告に続き、豚舎を視察（バイオベット豚舎、堆肥保管施設）。 ・JAかつの管内の淡雪こまち圃場・飼料用米圃場を視察。 ・ミートランドによる概要説明、屠畜、内臓処理、カット工程の視察。

9月13～14日	第3回 (大紀コープ ファーム)	- 参加者15名(生産者:2産地2名、パルシステムグループ10名ほか)。 - 産地概要、産地ビジョンの説明に続き、柿の選果場を視察。また梅の一次漬け込み加工場、および柿・梅の圃場視察を行った。 2日目には美吉野醸造、酒米圃場視察を行い「農悠舎王隠堂(農家レストラン)」にて王隠堂誠海氏を交え昼食交流および意見交換を行った。
11月21～22日	第4回 (八千代産直)	- 参加者14名 (生産者:6産地6名、子会社2名、パルシステムグループ3名ほか)。 - 八千代産直、JAつくば市谷田部の農家、またパルグリーンファームを2日間に渡って視察。 - 養護学校や外国人を迎え入れ、苦労を背負いながらも人手不足の問題を乗り越えて行こうという取り組みを見ることができた。

【次世代リーダー研修(経営者向け連続企画)】

月日	企画	内容
7月12～13日	第1回	- 産直産地の若手生産者およびパルシステム職員の計32名が参加。 - 講演①山本伸司氏(パルシステム連合会顧問) 「パルシステムの沿革と社会的意義」 - 講演②畑山敏也氏(パルシステム協力会 会長) 「考え方ひとつで人生が変わる」 - グループワーク実施 テーマ①産直の仕事のやりがい、テーマ②若手の思い描く産直の姿。 - 講演③井上淳信氏(コモテック人材開発研究所) 「世界の生協の情勢とパルシステム」
8月23～24日	同窓会企画	2016、2017年度の若手リーダー研修に参加した生産者・パルシステムグループ職員13名が再度集合し、視察研修・意見交換会を実施。 1日目はなかむら農園を視察後、社屋にて産地ビジョンの報告を実施。 2日目には株式会社オルトの野菜カット工場、フリーズドライ工場の視察を行った。 - 農悠舎王隠堂での昼食交流会では様々な意見交換がなされ、参加者それぞれの立場から「産直」を盛り上げていくことが約束された。
11月29～30日	第2回	- 第1回目に参加したメンバーを始め、計33名が再集結した。 - 講演①谷口吉光氏(パルシステム生消協アドバイザー) 「生消協の意義と役割」 - 講演②杉村剛是氏(パルシステム連合会 広報部部長) 「パルシステムでエシカル消費」 - 講演③加藤かおり氏(パルシステム連合会 商品企画部部長) 「産直プロモーション2018」 - 講演④玉田直子氏(パルシステム連合会 商品検査センター長) 「商品検査について」 - グループワーク実施 テーマ①産直の思いを伝える紙面づくり、テーマ②「産地の課題と解決方法」、テーマ③「目指す産直の姿」 - 最後にパルシステム内部を案内、理事との名刺交換を行った。

2月7～8日	第3回	・研修リーダーの高橋幹事により、前回の振り返りを行った。 ・リーダー研修のまとめに向けて、J A ささかみ 青木氏より意見発表。 ・講演：持田宏平氏（株式会社セラク 事業部長） 「IoT・AI を活用した農業の産業化」 ・グループワーク実施 テーマ①「私たちのSDGs」、テーマ②「研修報告まとめ」
--------	-----	--

【公開確認会】

月日	開催地	公開確認会開催産地名	監査品目	会員生協
5月10～11日	北海道	野付漁業協同組合	コア・フードほたて	パルシステム連合会
7月19～20日	山形県	J A 山形おきたま	エコ・山形つや姫	パルシステム東京
8月20～21日	福島県	J A 会津よつば	エコ・会津コシヒカリ	パルシステム福島
9月21～22日	福岡県	J A ふくおか八女	みかん	パルシステム埼玉
10月12～13日	鹿児島県	鹿児島くみあいチキンフーズ	鹿児島若鳥照焼チキン	パルシステム神奈川 ゆめコープ

【産直連続講座】

	開催日	会員生協	開催産地名	講義内容	参加人数
1	6月8日	神奈川	三里塚 農法の会	・ジーピーエス工藤本部長よりパルシステムの栽培基準農薬や栽培記録管理システムについて、また三里塚農法の会・橋本氏からは、産地の取り組みについてお話いただいた。 ・3つのテーブルに分かれ野菜を試食しながら交流を深めた。	23名
2	6月15日	福島	ナカショク	・養豚の取組みや考えをお聞きすることで価格以上の価値を感じていただくこと、大切な産地として組員より支持をいただくことを目的とし、学習をおこなった。 ・昼食交流ではホットプレートでの焼肉を試食し、産地と組員との近い関係づくりがなされ、信頼関係が深まった。	29名
3	6月26日	山梨	ポークランド グループ	・「日本の COME BUTA って何？」と題し、西桂センターサポーターにより開催。 ・豊下代表とパル・ミート望月氏より、“日本のこめ豚”の生産過程や取り組みについて、講座を行っていただいた。 ・日本のこめ豚を使用した昼食交流、豚肉の食べ比べも実施。	33名
4	7月3日	茨城 栃木	花咲農園	・「秋田あきたこまち」に懸ける農業魂に触れてみよう！」をテーマに、戸澤代表から産地の取り組みについてご講演。 ・昼食では秋田あきたこまちのおにぎりをメインに、みそ汁、サラダ、ポークランド豚肉の冷しゃぶを囲みでの交流。	20名

5	7月9日	群馬	J A広島 果実連	・及川氏をお招きし、産地の紹介や広島レモンの特長、周年供給やブランド化への軌跡等について講演いただいた。 ・西日本豪雨発生の翌日にも関わらずご対応いただき、組合員からも感謝の声が多く、アンケートでは購入希望と全員が回答していた。	30名
6	7月13日	静岡	大紀コープ ファーム	・和田尚久氏による産地紹介に続き、梅シロップ作りを開催。 ・試食交流では梅ハニー、梅ゼリー、塩レモン料理を提供。 ・普段は聞くことのできない、梅の色々な話が沢山聞けてとても充実した2時間だった等、組合員から非常に好評だった。	14名
7	7月17日	山梨	J Aふくおか 八女	・J A八女のお茶や日本茶の消費動向について、室園氏からパワーポイントを使用して説明いただいた。 ・生産者の松永氏より美味しいお茶の淹れ方をレクチャー及び模範の淹れ方も披露いただいた後、参加者にも実際にお茶を淹れてもらった。 ・お茶とパルのスイーツとともに、生産者との交流を図った。	27名
8	7月26日	埼玉	ポークランド グループ	・豊下代表、パル・ミートの望月氏、J A全農ミートフーズの茅田氏の3名をお迎えし、豚肉の産直産地の全般的な取り組みが紹介された。 ・豊下代表の説明を聞きますますファンになった。これからも「こめ豚」を応援したいという感想が参加者から寄せられた。	18名
9	7月28日	福島	無茶々園	・学習では産地の取り組みや美味しさの理由について理解を深め、西日本豪雨による被害状況も報告された。 ・「ちりめんモンスターゲーム」では、ちりめんの中から小さな魚を探し、大人も子供も夢中になり楽しい時間となった。 ・美味しい柑橘やちりめんを使ったトーストを味わいながら、和やかな昼食交流が開催できた。	35名
10	8月2日	東京	雄勝りんご 生産同志会	・小野田代表より豪雪地帯でのりんご栽培におけるご苦労や、エコ・チャレンジ基準についてお話いただいた。 ・「おいしさ」「安全」の向こう側には大変なご苦労と努力があることが良くわかりました等、組合員からの理解もしっかり得ることができた。	33名
11	8月21日	静岡	オルター・ トレード・ ジャパン	・黒澤氏をお招きし、チョコレートについての基礎知識からカカオの産地の様子について講義いただいた。 ・カカオマスから作るチョコレートとチョコバナナ作りやカカオ茶作りを体験し、大人と子供が一緒に”楽しく学習できる企画”となった。	31名
12	8月24日	埼玉	ゼスプリ	・「夏休み親子 de キウイ学習会」と題し、親子参加企画として組合員と小学生以上の子供を対象とした。 ・ゼスプリの取り組みとキウイフルーツの魅力を伝えていただいた後、ジャムとドレッシングを作り、トーストとサラダを味わいながら交流を図った。	43名
13	9月4日	山梨	山形コープ豚 産直協議会	・「いのちを紡ぐ人々の物語」と「豚にも環境にも無理のない方法で地域に根差した養豚」についてのお話を伺った。	20名

				・豚肉、ハム、ウインナーを使った料理を囲んで、参加者間での交流を図った。	
14	9月6日	東京	J Aやさと	・松崎泰弘氏を講師にお招きし、J Aやさとの概要や産直たまごについてのお話をいただいた。 ・市販のたまごと松崎氏の平飼いたまごとを割り、見た目・におい・色・形を観察した後、卵かけごはんを試食。 ・カスタードプリンも試食でいただき、大切なたまごを無駄なく使用している取り組みも紹介した。	32名
15	9月6日	神奈川	佐原農産物供給センター	・香取代表理事、香取千恵子氏、香取時子氏、根本嘉恵氏をお迎えし、香取代表からの講義と農め〜くらぶによる料理教室を開催。 ・いっぷく堂の紹介もあり、精力的に活動されている産地であることが深く理解いただける講座となった。	34名
16	9月13日	福島	J Aやさと	・産地の取り組みを理解することで価値を感じていただくため産地のこだわりと卵について学んだ。 ・抹茶プリン、シンプルキッシュ、煮たまご、シフォンケーキを調理し、試食交流を行った。さっそく家庭でも作りたいとの声もあり、卵の購買意欲も高まった。	29名
17	9月28日	群馬	米沢郷牧場	・「米沢郷の幸せな鶏肉ってどんな味？」と題し、日本型畜産の取り組みなど、幅広い内容で講義いただいた。 ・時間を考慮し2段階に分けて調理実習。米沢郷モモ肉のシンプルソテー、カオマンガイ、チキンと野菜の赤ワイン煮込みを作りあげ、大変充実した内容の講座となった。	16名
18	10月11日	群馬	エコーたまつくり	・「れんこん大解剖」と題し、産地概要および栽培のこだわり等について講義いただいた。 ・試食交流では、れんこんのカラフルサラダをはじめ、部位ごとのおすすめメニューを調理。参加者全員からアンケートで「大変良い」の回答を得た。	20名
19	10月18日	千葉	大紀コープファーム	・和田尚久氏をお招きし、産地の取り組みや熱い想い、組合員への安定供給の為にされている多くの努力など、詳しくご説明いただいた。 ・大紀コープファームの梅干を使用した調理実習を経て、試食交流会を実施。組合員からの質問も多く、時間が不足する程の反響であった。	30名
20	10月19日	茨城 栃木	大紀コープファーム	・前日の千葉に続いて和田尚久氏にお越しいたいただき、産地概要や理念、方針など多岐に渡る内容にてプレゼンテーションしていただいた。 ・昼食交流を開催し、参加した組合員からも好評の声が多くあがった。左足を怪我されて大変な中ご参加いただき、大変感謝している。	31名
21	10月23日	東京	J A津軽みらい	・ときわ良質米生産部会 副部会長の横山氏より、青森県の稲作、生協との関係の歴史について、J A職員の佐々木氏からはJ A管内で行っている基礎活動や農村環境保全活動、IPMやSNSでの情報発信についてご説明いただいた。	29名

				・新米の「つがるロマン」をおむすびにして試食。「知名度の低かったつがるロマンをここまで大きくしてくれたのはパルシステムの組合員のおかげだ。」とお言葉も。	
22	10月25日	埼玉	八千代産直	・坂入清史氏ほか3名をお招き。坂入氏からは可能な限り農薬や化学肥料に頼らず、環境に負荷をかけない栽培技術や土づくりについて講義いただいた。 ・八千代産直おすすめレシピ、「白菜のクリーム煮」「きゅうりの炒め物」「白菜ときゅうりの三杯酢漬け」を生産者と共に調理し、交流を図った。	34名
23	11月8日	東京	ポークランドグループ	・代表の豊下勝彦氏を講師として迎え、地元にも愛される日本でも有数の大規模養豚業者へ至るまでの過程や取り組み等を講演いただいた。 ・日本で行われている食肉加工の現状や、外国産の食肉について映像で紹介され、非常にわかりやすかったとの感想を得た。 ・パル・ミート濱田氏の指導のもと、こめ豚ローススライスをしゃぶしゃぶにして試食した。	29名
24	11月13日	千葉	J A ふくおか八女	・生産者2名にお越しいただき、おいしいお茶の淹れ方を学んだ。参加者一人に1セットずつ茶器をご準備いただき、非常に贅沢な講座となった。 ・「喉が乾いたなら水を飲み、心が乾いたらお茶を飲む」という、心に沁みる言葉をお伝えいただいた。 ・八女茶のことを理解し、次回からは必ず買うという意見を参加者より聞くことができた。	21名
25	11月13日	千葉	J A みどりの	・佐藤氏、上部氏、早坂氏の3名をお迎えし、田植えから稲刈りまで四季に沿って米づくりについてご説明いただいた。また、組合員交流も年間を通じて開催されている様子をご報告いただいた。 ・3種の米、また鍋炊きとレンジ炊きによる食べ比べをしながら試食交流を行った。	31名
26	11月23日	埼玉	タカハシ養鶏	・高橋光正氏、高橋洋平氏をお迎えし「いろんなたまごがあるんです！」と題して講座を開催。 ・「日本人は1年で約何個のたまごを食べる？」など、たまごのQ&Aで盛り上がり、たまごや鶏に関する質問が様々あった。 ・食育サポーターが調理したスパニッシュオムレツやゆでたまごを試食しながら和やかな交流を図った。	21名
27	11月24日	茨城 栃木	宮北牧場	・パル・ミート割石氏より、パルシステムがめざす畜産産直等について講義いただいた後、宮北牧場代表の宮北輝氏より、牧場の歴史や生産概要など産地プレゼンを行って頂いた。 ・宮北氏の熱い思いが十分に伝わった様子の感想が多く、理解を深める講座となった。	32名

28	11月29日	福島	花咲農園	・代表の戸澤氏にお越しいただき、プレゼン資料は使用せず語りのみで90分間の講義を行っていただいた。 ・花咲農園あきたこまち、こめ豚を使ったミルフィーユカツなどのメニューを準備して昼食交流を開催。 ・登録米を利用したいとの感想もあがり、好評な講座となった。	28名
29	11月29日	千葉	白州 森と水の里センター	・代表の高草木氏をお迎えし、環境保全型農業に取り組む産地の概要についてご説明いただいた。 ・コア・フード平飼いたまご、親鶏ミンチ、かぼちゃ、大根、白州のお味噌を使い、調理実習を実施。組合員からも好評の声が多くあがった。	36名
30	12月18日	東京	大牧農場	・五十川賢二氏、樫木聖一氏、村橋美学氏の3名にお越しいただき、産地のこだわりや歴史についてご説明いただく。また、じゃがいも（北海こがね）と冷凍たい焼きの試食を実施。 ・じゃがいも、大豆以外の大牧農場の生産品が多くの商品に使用されていることを再発見した参加者も多かった。	29名
31	1月18日	福島	佐原農産物供給センター	・産地紹介、調理実習、試食交流の流れで開催。 ・「農め〜くくらぶ」メニューより「野菜畑のミネストローネ」「小松菜の蒸しケーキ」「さつまいもサラダ」の3品を調理。 ・託児対象の若い世代の方5名や初めての参加者もあり、良い講座となった。	29名
31	1月23日	神奈川	宮北牧場	・アニマルウェルフェアについての報告がパル・ミート割石氏より行われ、宮北牧場の宮北代表からは産地の歴史やこだわりについてご説明いただいた。 ・コア・フード牛肉切り落としを試食し、5名が牛肉の登録を行った。商品の価値を考えるきっかけになったことが伺える。	20名
32	1月25日	群馬	オルター・トレード・ジャパン	・後藤氏を講師に迎え、チョコレートの基礎知識やコーヒーについての講演、原料のカカオ豆を使用して調理実習を開催。 ・各種チョコレート、ラオスのコーヒーを試食しながら交流を図った。募集を大きく上回る応募があり、初めての参加者も10名と多かった。	24名

※本議案書の製作可能時期（1月末）までに開催された講座を掲載しております。

運 営 規 程

(総則)

第1条

パルシステム生産者・消費協議会（以下、生消協）の運営規程は、加入者の意志と参加を前提として別紙の機構図にあるように会員相互の円滑な意志疎通と目的達成のために民主的な運営を保証するものである。

(総会)

第2条

生消協会員は、平等の権利を有し1会員1名の議決権は総会において保証され、総会は原則として年一回開催されるものとする。

(幹事会)

第3条

この会は次の内容で開催する。

1. 幹事会は会規約により選任された幹事で組織する。
2. 幹事会は生産者から代表幹事1名、消費者から副代表幹事1名を選任する。なお必要に応じて生産者から代表代行幹事1名を置くことができる。
3. 幹事会は代表幹事が召集する。
4. 幹事会は総会で決議した方針に基づき、日常の運営にあたる。
5. 原則として年4回の幹事会を開催する。別途必要に応じて臨時幹事会を開催することができる。

(監事会)

第4条

1. 監事は、監査について相互の連絡、協議、意見統制及び決定のために監事会を置く。
2. 監事は、代表監事1名を監事会において互選する。

(生産者運営委員会)

第5条

■生産者運営委員会

1. 生産者幹事、ブロック役員、各部会長をもって組織する。
2. この会には委員長1名をおく。
3. 会の招集は委員長が行い、年3回以上の会議を開催するものとする。
4. 会の目的は生産者のネットワーク組織のまとめ役とし、生産者の自立的課題の整理をする。

■地域ブロック

1. ブロックは、東北・北海道ブロック、関東・中部ブロック、関西・以西ブロックとする。
2. 各ブロックはブロック長・副ブロック長を選任する。但し兼任はできない。
3. 各ブロックは、年数回のブロック会議開催と、生産者同士の地域的つながりの強化と

連帯を図る。また個々の生産者同志の意見交流、情報交換を行い生産向上に生かすものとする。

■専門部会

1. 米、野菜、果樹、畜産、鶏卵の5つを専門部会とする。
2. 各部会は互選により部会長1名を選任する。兼任はしない。必要に応じて副部会長をおくことができる。
3. 各部会ごとに年1～2回の部会を開催し、各品目ごとの課題解決に向けて学習、検討、実験などを行う。

■その他

必要に応じて幹事会の基に特別プロジェクト又は委員会を設置することができる。

(消費者運営委員会)

第6条

1. 消費者幹事をもって組織する。
2. この会は、組合員や会員生協の要望、意見他を生消協議会全体に反映させるためのまとめ役を行う。
3. 部会は必要に応じて開催するものとする。

(事務局)

第7条

1. 生消協の運営を円滑に進めるために事務局を置く。各種企画は、その都度実行委員会を組織してこれにあたる事ができる。
2. 代表の下に事務局会議を設置する。
3. 事務局会議メンバーは、代表幹事が指名し、会の円滑運営を目的として開催する。

会費基準及び旅費・慶弔規程

(会費基準)

第1条

①生産者団体

1. 生産者会費は最低会費を 1 万円としパルシステム連合会との前年度の年間取引高に基づき算定する。
2. 生産者会費基準はパルシステム仕入れ金額とする。但しわかりにくい場合は産地と相談する。

②消費者団体

1. 当該年度の総会で決定した予算に沿って、算定方法の基準により生・消協幹事会で確定する。
2. 会員生協の会費の確定方法は、原則として以下とする。
 - (ア) 消費者側（会員生協・連合会・子会社）は、当該年度の生・消協予算の概ね半分を目安に、会費として拠出する。
 - (イ) 会員生協総額、連合会、子会社の拠出額については幹事会で決める。
 - (ウ) 会員生協会費は、パルシステム（無店舗事業に限定）の当該年度の3月末登録組合員の数値（Web サーバーから抽出）を用い、その数値に応じて会員生協ごとに按分して負担する。

(会費払込)

第2条

1. 生産者側団体の会費の払い込みは、当該年度の7月末までに各団体へ請求書を発行し、9月末日までに行うものとする。
2. 消費者側団体の会費の払い込みは、当該年度の4月15日までに各団体へ請求書を発行し、4月末日までに行うものとする。
3. 賛助会員の会費額は別途相談する。
4. 取引高比例会費基準は以下とする。

基準	会費額	基準	会費額
10億円超	250,000円	5千万円超	50,000円
5億円超	200,000円	3千万円超	30,000円
3億円超	150,000円	1千万円超	20,000円
1億円超	100,000円	1千万円以下	10,000円
7千万円超	70,000円		

(役員・事務局旅費支給規程)

第3条

1. 生消協幹事会・生産者運営委員会・消費者部会・事務局又は会として認められるその他会合への出席のための旅費の支給は本規定による。
2. 交通費はその都度申告しあらかじめ指定された口座に振り込む。

3. この規定の変更は幹事会の議決により行う。

(慶弔規程)

第4条

1. 生消協の関連団体の慶弔に関する事項は、この慶弔規定による。金額などの裁定は代表が決定する。
2. その他生消協関連団体の慶弔については、原則として生消協が会員を代表して行うものとする。
3. この規定の変更は幹事会の議決により行う。

(事務局)

第5条

1. 事務局の選任は幹事会が行う。
2. 雇用は連合会が行う。
3. その他必要事項については幹事会が裁定する。

組 織 規 約

1990 年設立総会 制定

2001 年第 12 回総会 一部改訂

2006 年第 17 回総会にて補強

2007 年第 18 回総会 一部改訂

2011 年第 22 回総会 一部改訂

2013 年第 24 回総会 一部改定

この規約は、2013 年 3 月 7 日より施行する

(名称)

第 1 条 この会は「パルシステム生産者・消費者協議会」と称する。

(目的)

第 2 条 この会は、パルシステム連合会とそれを構成する会員ならびに産直活動を進める生産者が、農業や食の問題を共通の課題とし、それぞれが生活者として相互連携し、それぞれに生きる「地域」を安全且つ豊かな「暮らしの場」とすることを目指し活動することを目的とする。

(構成)

第 3 条 この会は、パルシステムと産直活動を進めている生産団体・個人ならびに会員生協、連合会、(株) ジーピーエス、(株) パルミートをもって構成する。

(役員)

第 4 条 この会は、その運営および監査のため、幹事および監事若干名をおく。

【幹事】

幹事は生産者と消費者双方から、同人数を基本とする。その選任は、生産者は各ブロック、消費者は会員生協及びパルシステムの推薦によるものとし、総会で選任するものとする。但し、消費者幹事は会員生協の都合により幹事会の承認を得て交代できることとする。任期は 2 年とし、再選を妨げない。なお、役員の定数については年度ごとに幹事会で決める。

【監事】

監事は毎運営年度 2 度以上、会の財産および幹事の運営執行状況を監査しなければならない。監事については生産者 1 名・消費者 1 名とする。

(会費)

第 5 条 会費は、原則として事業高や構成員の数で決定し、個人・団体の特別会費の納入を妨げない。また、その額は別途定める。

2 会員に特別の事情がある場合は、幹事会の承認を得て、会費納入を免除することができる。

(運営)

第 6 条 運営については、別途「運営規程」に定める。

2 運営年度は、2 月 1 日より翌年 1 月末日までとし、毎年一回以上総会を開く。

(所在地及び事務局)

第 7 条 所在地及び事務局は、東京都内におく。

(改廃)

第 8 条 この規約の変更は、総会の決議によらなければならない。

パルシステム生産者・消費者協議会 会員名簿

北海道・東北ブロック	
1	あいづグリーンネットワーク
2	会津よつば農業協同組合
3	秋田ふるさと農業協同組合
4	花巻農業協同組合
5	うもれ木の会
6	株式会社エプロン
7	有限会社大牧農場
8	大潟村産直会オーリア21
9	雄勝りんご生産同志会
10	奥中山高原農協乳業株式会社
11	音更町農業協同組合
12	株式会社花兄園
13	かづの農業協同組合
14	北いぶき農業協同組合
15	黒田ファームグループ
16	有限会社ゴールド農園
17	小清水町農業協同組合・健土塾
18	こまち農業協同組合
19	士別市多寄有機農業研究会
20	農事組合法人土別農園
21	農事組合法人庄内協同ファーム
22	庄内たがわ農業協同組合
23	津軽みらい農業協同組合
24	合同会社 天童果実同志会
25	常盤村養鶏農業協同組合/農事組合法人八峰園
26	ノーザンビーふ産直協議会
27	有限会社花咲農園
28	有限会社富良野青果センター
29	ポークランドグループ
30	までっこチキン生産者連絡協議会
31	株式会社丸公
32	株式会社マルタ
33	みちのく野菜倶楽部
34	みどりの農業協同組合
35	山形おきたま農業協同組合
36	山形コープ豚産直協議会
37	株式会社米沢郷牧場

関東・中部ブロック	
38	青木農園
39	株式会社アグリイノベーションズカンパニー
40	有限会社旭鶏園
41	あじたま販売株式会社
42	有限会社アップルファームさみず
43	有倉きのこ園
44	アルプス農業協同組合

関東・中部ブロック	
45	有限会社伊豆鶏業
46	魚沼みなみ農業協同組合
47	農事組合法人エコーたまつくり
48	えちご上越農業協同組合
49	遠州中央農業協同組合
50	有限会社小川和男養鶏場
51	株式会社オルター・トレード・ジャパン
52	勝沼平有機果実組合
53	神奈川中央養鶏農業協同組合
54	金沢市農業協同組合
55	かなもと青果株式会社
56	有限会社北浦軍鶏農場
57	北蒲みなみ農業協同組合
58	峡南鶏友会
59	有限会社ギルド
60	有限会社黒富士農場
61	農事組合法人グットファーム
62	久望農園
63	くらぶち草の会
64	B M自然塾 有限会社謙信の郷
65	農事組合法人埼玉県産直協同
66	佐久浅間農業協同組合
67	佐久ゆうきの会
68	ささかみ農業協同組合
69	佐渡農業協同組合
70	農事組合法人佐原農産物供給センター
71	有限会社サンドファーム旭
72	サン・ファーム
73	三里塚農法の会
74	澁谷養鶏農場
75	株式会社JAしみずサービス
76	首都圏とんトン協議会
77	有限会社ジョイファーム小田原
78	常総センター
79	常総ひかり農業協同組合 産直研究会
80	特定非営利活動法人食農ネットささかみ
81	ゼスプリ インターナショナル・ジャパン株式会社
82	農事組合法人村悟空
83	株式会社第一清瀬出荷組合
84	有限会社タカハシ養鶏場
85	株式会社ちば風土の会
86	ちばみどり農業協同組合海上野菜組合産直部
87	有限会社ちば緑耕舎
88	つくば市谷田部農業協同組合 産直部会
89	有限会社寺島農場
90	東光寺生協葡萄協力会

関東・中部ブロック	
91	有限会社栃木元気会
92	とちのみ会
93	有限会社トップリバー
94	利根川生産者グループ
95	株式会社ナカショクミートフーズ
96	株式会社菜の花エッグ
97	にいがた南蒲農業協同組合
98	株式会社ニッコー
99	有限会社日本の稲作を守る会
100	白州たまご生産組合
101	白州 森と水の里センター
102	農事組合法人葉菜野果産直
103	バンラート農業協同組合
104	株式会社ファーマン
105	フォレスト・ファーム
106	有限会社フレンズファーム
107	ホクレン農業協同組合連合会
108	農事組合法人増野
109	マルハニチロ株式会社
110	三浦半島EM研究会
111	南伊豆太陽苑生産者グループ
112	南埼玉産直ネットワーク
113	株式会社野菜くらぶ
114	やさと農業協同組合
115	株式会社八街産直会
116	農事組合法人八千代産直
117	やはた会
118	山梨御坂くだもの倶楽部
119	有機栽培あゆみの会
120	有限会社沃土会
121	農事組合法人和郷園

関西・以西ブロック	
122	イシハラフーズ株式会社
123	うまか有機銘茶会
124	株式会社沖縄物産企業連合
125	おても会
126	鹿児島くみあい食品株式会社
127	鹿児島くみあいチキンフーズ株式会社
128	かごしま有機生産組合
129	紀南農業協同組合 田辺印の会
130	紀ノ川農業協同組合
131	有限会社九州青果物流通センター
132	有限会社草枕グループ
133	有限会社高生連
134	高知はた農業協同組合
135	株式会社ささ宮農
136	さんまる柑橘同志会
137	有限会社島原自然塾
138	株式会社すすき牧場

関西・以西ブロック	
139	有限会社大紀コープファーム
140	農事組合法人たいよう農園
141	たじま農業協同組合
142	株式会社長有研
143	農事組合法人ながさき南部生産組合
144	有限会社なかむら農園
145	西宇和果実出荷組合
146	西日本有機農業生産組合
147	広島県果実農業協同組合連合会
148	福岡八女農業協同組合
149	株式会社フレッシュダイレクト
150	有限会社真南風
151	有限会社マルハ園芸
152	有限会社三皿園
153	肥後あゆみの会 水俣・不知火ネットワーク
154	株式会社地域法人無茶々園
155	有限会社やさか共同農場
156	一般財団法人夢産地とさやま開発公社
157	有限会社ゆらぎふあーむ

賛助会員	
158	大隅地区養まん漁業協同組合
159	恩納村漁業協同組合
160	有限会社カネモ
161	釧路市漁業協同組合
162	富栄海運有限会社 唐津営業所シーボーン昭徳
163	全国漁業協同組合連合会
164	長崎県漁業協同組合連合会
165	野付漁業協同組合
166	えりも漁業協同組合

パルシステム関係	
167	生活協同組合パルシステム東京
168	生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ
169	生活協同組合パルシステム千葉
170	生活協同組合パルシステム埼玉
171	生活協同組合パルシステム茨城 栃木
172	生活協同組合パルシステム山梨
173	生活協同組合パルシステム群馬
174	生活協同組合パルシステム福島
175	生活協同組合パルシステム静岡
176	パルシステム生活協同組合連合会
177	株式会社パル・ミート
178	株式会社ジーピーエス

■会員数（2019年3月1日時点）

東北・北海道ブロック	37会員
関東・中部ブロック	84会員
関西・以西ブロック	36会員
賛助会員	9会員
パルシステム関係	12会員
合計	178会員